

りくりょくどうしん どうじ 『戮力同心』・『同事』



普伝寺様拝登の折り、東堂グアレスキ泰天老師と

第13教区長 海源寺住職 岩崎 義幸

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、謹んで貴家皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

記事にもございますように、コロナ禍を乗り越え、令和2年より進めてまいりました『大般若経寄贈プロジェクト』の第一の目的であるイタリア普伝寺様を訪れ『世界の平和と皆様の幸せ』を祈る伊日合同大般若祈祷会を厳修することができました。多くの皆様のご協力のもと修復された大般若経を用い、日本とイタリアの僧侶が共に世界の平和を祈る貴重なご縁をいただきましたこと、心より光栄に存じます。

また、被災から二年が経過した能登半島地震の被災地支援活動につきましても、皆様のご理解ご協力により継続して取り組むことができました。被災地に一日も早く穏やかな日常が戻りますことを祈っています。

さて、表題の『戮力同心』という言葉は、大学野球を通じて出会ったもので、『心を合わせ、力を合わせ、協力すること』を指し、前に進もうという想いが込められています。今後の支援活動においても大切にしてまいりたい心です。

曹洞宗の開祖 道元禅師は『同事』という教えを示されました。これは『相手の立場に寄り添い、共に喜び、共に悲しみ、共に歩み、支え合う』ことの大切さを説いたものです。

相手と全く同じ気持ちになることは容易ではありませんが、相手に寄り添おうとする姿勢こそが、心の支えや安心を生み出すのだと思います。

日々の生活においても、『戮力同心』や『同事』の心を大切にし、お互いを尊重し、思いやりの心を忘れず、共に歩みを進めてまいりましょう。

第19回 微笑会のご案内

日時：令和8年6月13日（土）

14:00 開会

開場：甘樂町文化会館

講師：大本山 永平寺 副監院 西田 正法 老師

本年は開催を予定しております。

皆様のご来場をお待ちしております。



大本山 永平寺 副監院 栃木県 足利市 明林寺 住職 西田 正法 老師

イタリア 普伝寺へ大般若経を贈るプロジェクト

～イタリア普伝寺へ大般若経を贈るプロジェクト完了のご報告～

神守寺 住職 堀口智玄



令和2年新型コロナウイルスの流行により、イタリア普伝寺から帰国した私の「普伝寺には大般若経がない」というつぶやきに、長学寺さんが「うちに2組あるから1組寄付するよ」と言ってくださったことからこの事業は始まりました。初めはこんなにも大事業になるとは考えず走り出しましたが、皆様から多額のご寄付をいただきましたおかげで、大般若経の修復や輸送には十分にお金を掛けることができ、また

細谷義昭先生にご制作いただいた、法要に必要となる釈迦十六善神図も寄贈することもできました。この5年の間には、今後イタリアで現地僧侶だけで大般若祈祷法要が勤められるように、法要の作法を普伝寺僧侶に伝授し、合同での法要を複数回おこなうなど、「せっかく大般若経を寄贈するのであれば100年200年と使い続けてもらえるようにしたい」という思いのもと事業を進めて参りました。そして昨年5月に普伝寺拝登・宗教視察の旅を実施し、当事業を完了することができました。

普伝寺拝登・宗教視察の旅には教区内外の寺院、寺族、檀信徒、また教区若手が法螺貝の師としている川口市真言宗光明院様ご夫妻を含め26名が参加してくださいました。この旅では、ミラノ、フィレンツェ、ローマの大聖堂などを巡り、普伝寺と親交のあるフィデンツァ大聖堂では司教様からお話を拝聴するなど、特にバチカンを総本山とするカトリック教会の信仰にふれることができました。そして、普伝寺では僧侶、信徒合わせて200名程が参列し、寄贈した大般若経を用いて祈祷法要をおこない、世界の平和、災害や戦地の早期復興、各々の諸願成就を祈願いたしました。法要後には普伝寺が企画した子どもたちのコンサートや、ランチパーティーにて交流を深めることができました。

普伝寺でおこなった大般若祈祷法要でご祈祷した御札は、報告書と記念品と共に当事業の寄付者の皆様に昨年7月にお送りいたしました。長学寺から寄贈され、当事業の寄付者の皆様の名前が記された大般若経はこれからもずっと普伝寺で使い続けられることでしょう。



私がお世話になった普伝寺へ大般若経を贈ることができ、旅行参加者の皆様と一緒に拝登できたことは、元国際布教師の身として非常に嬉しく思いますし、曹洞宗の国際布教に貢献できたのではないかと感じています。

結びに当事業に対し13教区を中心としたご寺院様、お檀家様には多大なるご協力とご寄付をいただき誠にありがとうございました。当事業に携わってくださいました全ての皆様へ感謝し、ご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、ご報告とさせていただきます。



イタリア普伝寺拝登・宗教視察の旅 旅程

5/22	・羽田空港より出国
5/23	・ミラノ到着 ・ミラノ大聖堂、最後の晚餐などを拝観
5/24	・普伝寺近くの街フィデンツァ到着 ・大聖堂見学、司教様のお話を拝聴 ・普伝寺拝観、法要リハーサル
5/25	・普伝寺にて合同大般若祈祷会 親睦交流会 ・フィレンツェへ
5/26	・フィレンツェ大聖堂、美術館などを拝観
5/27	・ローマヘ バチカン市国の大聖堂、博物館を拝観
5/28	・コロッセオ、フォロロマーノなどローマ市内を観光 ・ローマ空港より出国
5/29	・羽田空港到着

プロジェクト概要

令和2年	・13教区を中心とした寺院、檀信徒から寄付を募る。 ・長学寺の大般若経600巻を修復。
令和3年	・大般若経修復完了。600巻を納める桐箱を新調。
令和4年	・600巻に寄付者1,576名の名前を記入。 ・細谷義昭先生作「釈迦十六善神図」完成。
令和5年	・航空便でイタリア普伝寺へ発送。 ・長樂寺東堂峯岸正典老師、堀口智玄師らが普伝寺にて、寄贈した大般若経を用いて最初の法要を行う。 ・普伝寺から45名の旅行団が長学寺に訪れ、教区寺院と大般若法要を行う。
令和6年	・「普伝寺拝登と宗教視察の旅」を計画・募集。
令和7年	・有志寺院と檀信徒で普伝寺を訪れ合同大般若祈祷会を行った。 ・寄付者へ祈祷札、記念品、報告書の発送

能登半島地震支援活動

～祈りと共に歩む復興～

前年に引き続き令和7年6月24日から27日の4日間、群馬12・13教区より12名、福井から1名が参加し、珠洲市 千光寺様、能登町 萬福寺様にて支援活動を行いました。

千光寺様では、本堂・庫裏はすでに解体され更地となっていましたが、地震で大きく傷んだ墓地の整備が急務でした。私たちは波打ったコンクリートの撤去と碎石敷きを行い、液状化で沈む地盤に苦労しながらも、多くの力を合わせて墓所までの通路を整えることができました。



萬福寺様では、雨の中、倒壊の危険がある土蔵から江戸期の仏具を慎重に搬出し、無事に保護しました。

第二次支援にて、土蔵より搬出した仏具の整理作業を行いました。



最終日には、火災で全焼した輪島朝市地区を訪れた後、蓮江寺跡地にて般若心経をお唱えし、犠牲者と復興を願う皆さんに祈りを捧げました。



令和7年11月26日から28日には、第二次支援として、プレハブ・物置の搬送および設置、備品整理、お守り祈祷法要・慰靈法要を執り行いました。今回祈祷いたしましたお守りは、能登半島地震により全壊した寺院の柱や梁に使われていたケヤキ材を再利用し、永隣寺住職が一つひとつ心を込めて作製した支援品です。前回支援以後、現地からは「車庫や納屋も倒壊の危険があるため、すべて解体し、屋根のある建物が一つも残らなくなった」との連絡がありました。そこで、教区内で提供先を探したところ、甘楽町の穂高建設様、富岡市の津金沢栄治様（七尾市海門寺副住職の義父）より、物置3台とプレハブをご提供いただきました。



経年劣化が見られたプレハブについては、搬送前に永隣寺住職を中心に補修し、現地にて仕上げ作業を行いました。内装木材は湯浅工業様、クロス貼りは林正一様にご協力いただき、搬送・設置には浦野浩司様、尾高清文様にご尽力いただきました。また、八幸石材様には前回に続き3トンダンプをご提供いただき、必要な資材を無事搬送することができました。今回の活動にあたり、多くの皆さまからの淨財とご協力に、心より感謝申し上げます。



千光寺・金峰寺跡地では、お守りの祈祷法要と、能登半島地震3回忌の慰靈法要を、石川県内の縁ある寺院ならびに各寺檀信徒の皆さんと厳かに執り行いました。瓦礫の中から「祈りのかたち」として生まれ変わったお守りが、被災された方々の心に寄り添うささやかな力となることを願っております。遠く離れていても、皆さまの想いと祈りは、確かに能登へ届いております。



第12回 寺院に親しむ講座



令和7年11月24日(月)

富岡市永隣寺において、寺院に親しむ講座が開催されました。今年は「写経木札お守りづくり」と題し、能登半島地震によって全壊してしまった寺院由来の木材（柱や梁として使われていた檼）で作った木札に自身の写経、仏画を刻み、お守りとするものです。写経の後には、木札を磨き、心静かな時間を楽しみました。お守りは後日刻字されたものをいただきます。

また、チボランティアとして、木材を提供していただきました珠洲市千光寺・金峰寺の檀家様向けに作られた木札のお守りの梱包作業を行いました。

能登支援活動協力のお願い



現在、「支援お守り」と「珠洲の数珠（腕輪念珠）」の頒布準備をしています。能登半島地震にて全壊した寺院の柱や梁のケヤキから作製した支援品となります。皆さまのあたたかいご支援とご協力を、今後ともよろしくお願い申し上げます。お申し込み・購入方法については、各寺院までお問い合わせください。

ウクライナ難民支援活動

～ポーランドとのご縁に導かれて広がる祈り～



シェラツ市長と支援物資

メッセージを代読している
アンドリュー氏の妹

ロシアによるウクライナ侵攻からまもなく4年。いまも多くの方が不安な生活を強いられています。私たちは「遠く離れた日本からでもできること」との思いから、令和4年よりポーランドを通じて支援物資を届けてきました。

13教区とご縁の深い、富岡市にて貸衣装屋を営むアンドリュー・クザイさんご夫妻を中心に、ポーランド・シェラツ市役所や多くの協力者と連携し、令和7年8月には現地で避難民への物資配布と支援寺院からのメッセージ代読が行われ、テレビでも紹介されました。

このつながりから、現地では13教区の御朱印活動や支援の紹介、曹洞宗や僧侶に関する展示、感謝の式典の開催も予定されています。日程が整い次第、参加寺院から代表者が訪問する予定です。

皆さまの祈りと協力は確かに届いています。平和を願い、これからもできる形で支援を続けてまいります。



天徳寺 十六世先住忌・寺族忌



令和7年5月10日(土)

甘楽町 天徳寺において、先代ご夫妻の天徳寺16世大禪泰道大和尚50回忌並びに内室天心院泰室寿仙大姉23回忌の年回法要が営まれました。御本寺 宝積寺様、高崎市全林寺様がそれぞれの法要の御導師をつとめ、参列者一丸となり報恩感謝のご供養をおこないました。

永隣寺 寺族忌



令和7年10月11日(土)

永隣寺24世内室 堀口清子様の小祥忌（1周忌）法要を、御本寺 宝積寺住職 西有孝裕老師 導師のもと、親族ならびに世話人の方々に見守られる中、厳かに執り行いました。ご法話では、永隣寺住職・副住職のこれまでの数々のご活躍に触れられ、清子様が遺されたご縁とお支えの尊さを改めて示してくださいました。

最興寺 普山結制



令和7年10月25日(土)・26日(日)

富岡市南蛇井 最興寺で、新しい住職が就任する「普山式（しんさんしき）」が行われました。最興寺の第38代住職になられたのは糸井俊人師です。最興寺では約30年ぶりとなるお祝い事に、境内は華やかなお祝いの雰囲気に包まれていました。

普山式では、新命住職が山門をくぐり本堂に昇って、檀信徒の皆様の前で最興寺の住職に任命されました。また、仏様の教えを示し精進する「結制（けっせい）」の諸法要も修行されました。結制にあたり、神奈川県横浜市 盛徳寺徒弟 伊藤光希師が「首座（しゅそ）」の大役を務められました。

当日は稚児行列も催され、30名のお稚児さんたちが色鮮やかな衣装で、お寺まで練り歩く様子が、秋の清々しい空の下でとても印象的でした。

多くのご寺院様、檀信徒、地域の皆様が集まり、温かい気持ちでお祝いする一日となりました。

梅花特派布教巡回

令和7年6月11日(水)



令和7年度 梅花特派布教巡回が、下仁田町 長楽寺において開催されました。13教区のみならず、高崎や藤岡、安中など各地の梅花講からも講員さんが集まり、講師の長野県真淨寺 永井真壽老師による丁寧なご指導のもと、心を合わせてお唱えをいたしました。

戦後80年にあたり、『平和祈念御和讃』や『戦災精靈供養和讃』なども学び、戦没者へ思い、平和への祈りをあらたにいたしました。

特派布教巡回

令和7年10月1日(水)



富岡市永隣寺にて、特派布教が行われました。

特派布教とは、曹洞宗の管長から任命された特派布教師が、管長に代わって全国の寺院を巡り、法話をを行う行事です。今回は北海道 正覚院住職 松村直俊老師をお迎えし法話を賜りました。各寺院の多くの檀信徒に参加いただき、松村老師のユーモアあふれる法話に参加の方達も笑顔で聴き入っていました。

現職研修

令和7年7月3日(木)



曹洞宗群馬県宗務所 令和7年度現職研修会が渋川市伊香保温泉ホテル天坊で行われました。55歳未満の曹洞宗の僧侶は年に一回以上、現職研修会に出席する義務があります。今年度の講師の中には、令和6年度に微笑会でご法話を賜りました、大本山 永平寺 副監院 栃木県 明林寺住職 西田正法老師も招かれ、「戒を授ける立場から、懺悔・三帰戒を学ぶ～橋本恵光老師ご提唱「教授戒文」を中心として～」をテーマに講義をされました。

第13教区護持会 総会・研修会

令和7年5月7日(水)

第13教区護持会総会がホテルアミューズ富岡にて開催されました。昨年度の会計報告や今年度の行事計画など、護持会のさらなる発展ために慎重な審議が重ねられました。

また総会に引き続き、研修会も開催されました。研修会では「ヨーロッパと日本のはざまで考える」というテーマで、長楽寺東堂 峯岸正典老師から日欧の文化の違いに関するお話をいただき、それぞれ理解を深めました。

編集後記

世界においても災害が多く、様々なニュースが飛び込んでいます。改めて日頃の生活というものは脆弱な基盤の上に成り立っている奇跡なんだなと感じる昨今、一步一步を大切に皆様方と歩んでいなければと存じます。

今後も教区並びに各寺院の活動にご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。

ウクライナ難民支援活動や大般若経プロジェクトは下記13教区ホームページからご覧になれます



曹洞宗群馬県宗務所

第13教区ホームページ

<http://gunma13.main.jp/>